

学校における人権教育の実践と課題

和歌山市立和歌山高等学校定時制教頭
東浦 真衣子

教育委員会による主な人権教育の実践

◇ 教職員の資質向上

研修

（管理職・初任教員・中堅教員・人権教育担当教員 等）

◇ 現状・課題の把握と学校支援

調査・指導助言

（各学校の人権教育指導計画・取組内容 等）

◇ 人権教育の視点を大切にした授業改善・充実

指導者用資料の提供・好事例の発信

（人権教育研究推進事業の活用 等）

みえてくる課題

研修の効果が特定の教員（人権教育担当者等）にとどまっている。



人権教育は…、

決められた授業がない、教科書がない、人権教育担当教員が必ずしも授業するわけではない、研修の内容をシェアする機会が少ない…。



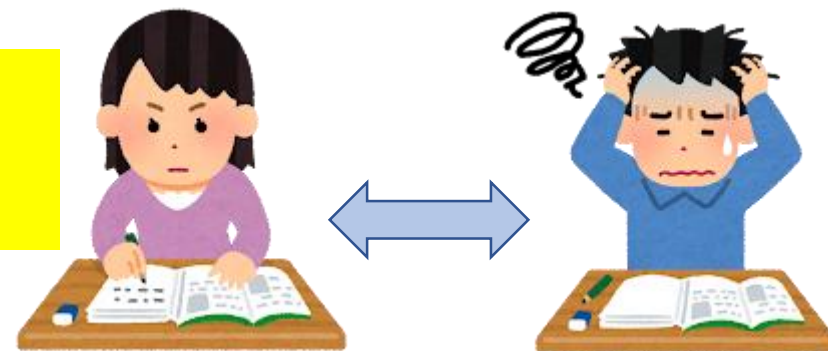
特定の教員
(人権教育担当者)



どの先生も

みえてくる課題

人権に関する授業に向き合う姿勢に学校間や教員間で差が激しい。



人権に関する授業は・・・、
決められた授業がない、教科書がない、人権教育担当教員が必ずしも授業するわけではない・・・。

一方で・・・、
個別の人権課題に関する授業をするためには幅広い知識や正しい理解が必要、学習者に含まれる当事者への配慮も必要・・・。



どの学校でも
どの先生も



みえてくる課題

人権課題に対する無理解・無意識・無関心から
偏見や差別的な事象が起こっている。



高校生が部落地名総鑑をメルカリで販売、LGBTに関するアウティングを苦に
自死、SNSを介した児童ポルノや性被害、身近な人やスポーツ選手や芸能人に
対する誹謗中傷投稿や差別発言・・・

障害（身体障害・知的障害・精神障害・発達障害・高次脳機能障害など）のある人に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか？



障害についての理解や認識が十分でない
64.2%

【令和5年度 人権に関する県民意識調査より】

課題解決に向けて

人権教育を「どの学校でも」「どの教員でも」おこなえる体制づくり

◆人権に関する指導について、年間指導計画への位置づけを明確にしていく。

参考：重点的に取り組む人権課題9つをすべての学校の年間指導計画に位置づける取組（和歌山県）

◆人権教育における教科書・指導書に替わる具体的な（授業ですぐに使える）参考資料の提供。

- ・ 実践事例
- ・ 膨大な参考資料



- ・ 児童・生徒向けのワークシート
- ・ 短時間で教員が必要な知識をインプットできる情報の提供。
（人権課題ごとに、指導の重点、関係法令、研修や授業に活用できるインターネットサイト等の情報を掲載 など…）

浅い知識や、誤った理解を教えると・・・、
差別・偏見や新たな人権問題につながる可能性も
ある。

たとえば・・・

- ・ LGBTのことを教えることで、いじめやカミングアウトを助長してしまう可能性も。
- ・ 部落差別は、歴史上の出来事で過去の問題である。
- ・ 障害者はかわいそうな存在だからいたわらなくてはならない。
- ・ 人権教育は、親切や思いやりを教える教育である。

・・・など

課題解決に向けて

偏見・差別はされる側ではなく、する側の問題だという視点を強調していく。

- ◆当事者の問題ではなく、自分の問題としてとらえていく学習。
→「障害の社会モデル」の考え方をすべての人権課題に

その他

- ◆成年年齢の引き下げとさらなる人権教育の必要性
- ◆日本語支援が必要な児童生徒が日本語支援や入試への支援について、一定の保障があるしくみへ